

教育長様

校番 069 高陽東 高等学校長

「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校 令和元年度 報告書

1 研究の概要

研究の目標（※計画書に記載したものを再掲）

論理的思考力を育成するカリキュラムについて、総合的な学習の時間を中心に実践的な研究を行う。

研究内容（※対象, 時期, 方法を含む）

○総合的な探究（学習）の時間等における「探究的な学習」の充実について

1 カリキュラム・マップの検証について

課題発見・解決学習推進プロジェクト小委員会で教科主任に説明後、各教科会において教科主任を中心に教科マネジメントを行い、再構成を依頼した。

対象：各教科主任を中心に各教科担当者

時期：10月～12月

方法：昨年度改善したシラバスの単元到達目標を、学校全体で育成する生徒の「資質・能力」である①見つける力（課題発見能力） ②考える力（探究力） ③繋がる力（社会参画力）の3つの尺度で再構成を行い、カリキュラム・マップに反映させた。

2 横断的・総合的な学習の授業実践について

「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間（Epoch I・II）」において、各単元を実施する前に担当者連絡会議を実施し、単元指導計画及び活動内容、評価方法について協議を行った。また、指導助言者である講師の先生方と教育研究部の各学年の担当者間で、単元全体を通してより主体的な学習活動になるように、事前・事後での協議会を実施した。総合的な学習の時間、各教科・科目、特別活動等を横断的なカリキュラム・マネジメントの視点から資質・能力を育成する効果的な関連のさせ方（目標関連・内容関連）や関連させた横断的・総合的な学習（授業）の効果的な実践方法について研究した。

①対象：1年次生・「産業社会と人間」担当者

時期：6月と10月

方法：「産業社会と人間」において、ひろしまジン大学理事長平尾順平先生や広島県で活躍されている社会人講師（6月3名、10月5名）と生徒が仕事についてトークライブ形式のパネルディスカッションを行った。

②対象：2年次生・Epoch I担当者

時期：4月～5月

方法：「総合的な学習の時間（Epoch I）」において、探究ノート作成時に、ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）の手法を用いた。

③対象：2年次生・Epoch I担当者

時期：6月と9月：探究ノート発表会、9月末：探究ノート閲覧会

方法：「総合的な学習の時間（Epoch I）」において、探究ノートに集めた情報を活用して2回のゼミ別発表会及び閲覧会を行った。

④対象：2年次生・Epoch I担当者

時期：10月～11月：SDGs行動宣言発表会

方法：「総合的な学習の時間（Epoch I）」において、SDGs行動宣言発表会において、探究ノート内の情報とSDGsのゴールを結び付けた。

⑤対象：3年次生・Epoch II担当者

時期：5月～6月

方法：「総合的な学習の時間（Epoch II）」において、「地学研究」（理科）と「世界事情」（地歴科）で扱ったSDGs（目標13：気候変動に具体的な取組を）の内容を関連させた。

○資質・能力の評価について

1 資質・能力の設定について

課題発見・解決学習推進プロジェクト担当者と管理職等が、国の答申、学習指導要領、県の施策、本校の教育目標、校訓、総合的な学習の時間の目標、Society5.0、地域や生徒の状況等を踏まえて設定した。

2 設定した資質・能力の普及について

- ・課題発見・解決学習推進プロジェクト委員会（月1回：第4火曜日約1時間）で各教科主任に説明、各教科主任は教科マネジメントを活かして教科会で説明した。
- ・課題発見・解決学習推進プロジェクト担当者が研修会を開き、全体に説明する。総合的な学習の時間や教科「産業社会と人間」担当者には、担当者会議や全体計画説明時等を利用して説明する。また、指導助言者である広島大学の松浦准教授を講師として迎え、研修会の中で資質・能力の捉え方及びその評価方法について御教示をいただいた。

3 資質・能力の評価について

「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間（Epoch I・II）」の各単元で特に育成したい資質・能力においては、学校全体で育成する生徒の「資質・能力」である①見つける力（課題発見能力）②考える力（探究力）③繋がる力（社会参画力）の3つの尺度の中から整理した。各単元での生徒の成果物（発表原稿・発表資料等）や自己評価表（振り返りシート）を評価するために3段階の段階的なルーブリックの作成を行った。

今年度の成果と課題

【成果】

○総合的な探究（学習）の時間等における「探究的な学習」の充実について

1 カリキュラム・マップの検証について

段階的なルーブリックを設定し、評価を実施することで、単元ごとに育成する資質・能力と明確に結びつけることができた。また、新たなカリキュラム・マップに基づき、目標関連、内容関連双方の視点から授業を実践した。

2 横断的・総合的な学習の授業実践について

- ①様々な職業観について理解を深めることができた。
- ②課題図書を各グループで[分担して読む⇒まとめる⇒発表・共有する⇒気づきを深め対話する]というプロセスを通して、著者の伝えようとすることを深く理解し、能動的な気付きや学びを得ることができた。
- ③探究ノートに収集する情報の質・量ともに充実させることができた。
- ④探究ノートへの情報収集をする際に新たな視点で情報を捉えることが可能になった。
- ⑤各教科での見方・考え方を生かして、SDGsの背景と今後の取組についてより理解を深めることができた。

○資質・能力の評価について

- ・「産業社会と人間」においては、各単元項目終了後に担当者2名で段階的なルーブリックに照らし合わせながら生徒の成果物等の評価し、それぞれ育成したい資質・能力についてA/B/Cで総合評価を行い生徒へ返却した。また、学年末にはこれまでの総合評価を5段階評定に換算し算出した。
- ・「総合的な学習の時間（Epoch I・II）」においては、各単元項目終了後に担当者で段階的なルーブリックに照らし合わせながら成果物等の評価し、それぞれ育成したい資質・能力について5/4/3の総合評価を行った。また各学期末には文章での評価内容を別紙にて記載し生徒へ返却した。
- ・教育研究部の各学年の担当で生徒のこれまでの成果物等をPDF形式で保存し、それぞれの担当者が評価した成果物等と各生徒の各資質・能力のルーブリック上での到達レベルに妥当性があるか検証を行うことができた。

【課題】

- ・再構成したカリキュラム・マップに基づき、目標関連、内容関連双方の視点からさらなる授業実践を計画・実施し、質的・量的充実を図る。また、その評価方法・評価内容の妥当性を含めた振り返りを通して、指導助言者と協議を重ねながら学校全体で研究し、各教科への汎用性についても研究する必要がある。
- ・1年次「産業社会と人間」で作成した生徒個々のライフプランをより具体化するために、「総合的な探究の時間（Epoch I・II）」（2・3年次）における探究の各プロセスの内容をさらに充実させる実践的な研究を行う必要がある。

次年度の目標及び取組内容

【目標】

論理的思考力を育成するカリキュラムについて、総合的な探究の時間を中心にカリキュラムの在り方に係る研究を行う。

【取組内容】

上記の目標を推進していくために、課題発見・解決学習推進プロジェクト小委員会を中心に、文献研究、校内研修、授業実践及び評価の研究を指導助言者と協議を重ねながら実施していく。特に総合的な探究の時間を中心に各教科・科目の教育内容を相互の関係で捉え、本校において育成したい3つの資質・能力のルーブリックを用いた評価計画を作成し、教科・科目間や教員間でのばらつきをなくす取組を行っていく。